



「環境工法」全面にアピール

4月1日付で関西支店執行役員支店長に就任した。「安全、環境、品質。三つの柱が土台となって初めて、受注と利益が生まれてくる。当たり前のことのように感じる

日本道路執行役員関西支店長

石川 誠一氏
いしかわ せいち



が、達成するには大変な努力が必要なものだ。だからこそ、これからも社員には徹底してその意識を植え付けていきたい」と抱負を語る。関西エリアの建設市場は「非常に良い。業者の数を仕事の数が圧倒的に上回っている状況」と見ており、「万博後もIR（統合型リゾート）や新幹線の延伸、再開発、高速道路のリニューアルなど大型事業の推進が見込まれる。今後も純民間の案件を中心に、われわれの技術力を十分発揮して質の高い仕事をしていきたい」と意気込む。同社は、従来工法からCO₂排出量を大幅に削減する『環境工法』に力を入れて取り組んでいる。

「環境保全に対する世間の意識は確実に高まってきている。当社開発の廃棄ペットボトルを原料としたアスファルト混合物は、国からも性能や効果が高い評価を受けている。幅広く社会の課題を解決する技術であることを全面に、これからもアピールしていきたい」

現状維持は「最大のリスク」と捉え、「現状をもっとよくするためにどうすれば良いか、常に考えて行動してほしい」と社員に期待を掛ける。

1993年3月金沢工業大卒業後、同年4月日本道路入社。2020年4月東北支店工事部長、22年4月東北支店長などを歴任。趣味はキックボクシング。富山県出身。1970年8月28日生まれ、54歳。

